

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞
(11月28日 午後3時現在)

平成23年11月28日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
現在の注水量は給水系配管から約4.4m³/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約3.1m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約4.4m³/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時より原子炉格納容器ガス管理システム本格運用を開始しました。
- ・ 11月6日午前11時4分、使用済燃料プールの放射性物質除去装置の運転を開始しました。
- ・ 圧力抑制室ガス温度について、11月26日午後5時時点、52.7℃を示しておりましたが、同日午後11時、「オーバースケール」表示（デジタルレコーダ）になっていることを確認しました。
11月27日午前5時時点は、102.6℃を示しており、指示値が不安定であるものの、同種の温度計2ヶ所および圧力抑制室プール水の温度変化に有意な変化が見られなかったことから、計器の不具合の可能性も含め、原因調査中です。
その後、計器の点検を実施した結果、温度検出器からの信号が安定していないことから、当該信号検出ラインで何らかの影響を受け、指示値がオーバースケールしているものと推定しました。今後、当該計器の指示値を継続監視するとともに、類似箇所を測定している計器にて監視を行ってまいります。
- ・ 原子炉格納容器（ドライウエル）内の温度（局部冷却設備である空調ユニットの戻りライン温度）は、11月27日午前5時時点で78.2℃を示しておりましたが、同日午前6時50分、約84℃にステップ状に上昇していることを確認しました。一方、原子炉圧力容器底部および圧力抑制室プール水の温度変化については、原子炉格納容器（ドライウエル）内の温度変化と比べて小さく、有意な変動はないことを確認しております。

現在、原子炉への注水については、下記の通り減少させていることから、原子炉格納容器内の温度が上昇することが考えられますが、ステップ状に上昇したのが、5ラインのうちの1つであり、他の4ラインには同様の変化が見られなかったことから、計器の不具合の可能性も含め、原因調査中です。

その後、計器の点検を実施した結果、故障等を示すデータは得られず、点検後の指示値は、点検前の指示値と変化なかったことから、当該信号検出ラインで何らかの影響を受け、指示温度が上昇したものと推定しました。今後、当該計器の指示値を継続監視するとともに、類似箇所を測定している計器にて監視を行ってまいります。

- ・ 11月24日午後7時11分、炉心スプレイ系からの注水量を約7.2m³/hから約5.6m³/hに調整（給水系は約2.9m³/hで継続）
- ・ 11月26日（午前10時18分～午前11時2分）、炉心スプレイ系からの注水量を約5.5m³/hから約4.5m³/hに調整（給水系は約3.0m³/hで継続）
- ・ 11月28日午前9時12分、使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生し、当該システムが自動停止しました。なお、同日午前9時16分に現場を確認したところ、漏えい等の異常は確認されませんでした。現在、原因調査中です。

3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。
現在の注水量は給水系配管から約1.9m³/時、炉心スプレイ系注水配管から約6m³/時です。
- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。

4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 8月20日午前11時34分、使用済燃料プールにおいて塩分除去装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系（B系）ポンプによる残留熱除去系（B系）の運転を開始しました。
- ・ 11月28日より、取水路ポンプ室底部に堆積した砂等の吸い込みによるポンプ性能低下の防止を目的とした清掃作業に伴い、残留熱除去系（D）ポンプを停止し、原子炉の冷却を停止しました。また、補機冷却海水系（C）ポンプを停止し、使用済燃料プールの冷却を停止しました。各ポンプ停止時の原子炉水温度は25.7℃、使用済燃料プール水温度は20.4℃でした。なお、冷

却停止予定時間は毎日午前7時から午後5時で、1日あたりの停止期間における原子炉水温度の上昇は約17℃、使用済燃料プール水温度の上昇は約4℃の見込み（作業期間は約1週間程度を予定）です。

- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを経由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。
- ・ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- ・ 11月10日午前9時10分、2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設高温焼却炉建屋への溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 11月15日午前9時25分、3号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設プロセス建屋への溜まり水の移送を開始しました。
- ・ 11月28日午後2時28分頃、免震重要棟前に設置している、連続的に空気中の放射性物質濃度を測定する測定器（連続ダストモニタ）において警報が発生しました。警報を受け、全面マスク着用の運用に基づき、同日午後2時38分より全面マスク着用を指示しました。現在、免震重要棟前における空気中の放射性物質濃度の測定を実施しており、警報発生の原因は確認中です。なお、モニタリングポストの値に有意な変動はないことを確認しております。

以上